

# 事業報告

講座名	いきいき環境塾 エコっこスクール2009		
日時	平成21年8月9日(日)～10日(月)		
場所	山口県セミナーパーク ほか	参加者数	15人

この講座は、1泊2日の見学・体験学習を通じて、自分たちが環境に与えている影響に気づき、考え、調べ、家庭や地域で環境に配慮した行動をとれるようになることを目的として開催したもので、今回は小学4年生から6年生まで15人の参加があった。

## 1 日程

平成21年8月9日(日)、10日(月) 山口県セミナーパーク ほか

## 2 活動内容

《1日目》

### (1) アイスブレイク

これから2日間一緒に過ごす参加者がうち解け合えるよう、簡単なゲームを行った。

今回の講座には4人のボランティアスタッフ(大学生)も参加しており、参加者に混じって行った。

- 動物あてゲーム
- 他己紹介

アイスブレイクで参加者同士仲良くなったところで、次の目的地、山口県立きらら浜自然観察公園へ出発した。



### (2) 山口県立きらら浜自然観察公園

きらら浜自然観察公園の成り立ち、意義等を聞いた後、自然観察(トンボの観察)や竹を使った工作を行った。

- きらら浜
  - \*自然の再生と保全

以前は干潟だった場所を埋め立て、286haの阿知須干拓地となった。その後ヨシ原や湿地ができて鳥が集まり、生き物が増えた。

人工的に淡水・汽水池、干潟、樹林などを作り、多様な環境でさまざまな生き物を観察できる公園ができた。

○ 自然観察

現在多く見られるトンボを中心に自然観察を行った。

きさら浜の生態系ピラミッドでトンボは上位に位置しており、現在31種見られる。頂点には鳥がおり、当初140種だったが、8年たった現在では200種に増えている。その分、ピラミッド下部の生物も豊かになっている。



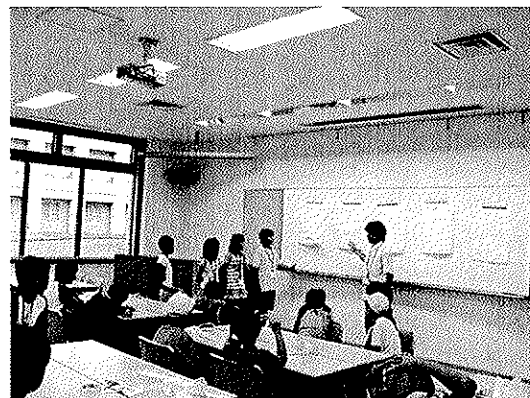
○ 工作

竹は森林を荒らす存在であるとの説明の後、竹を使った工作（トンボ）を行った。それぞれ工夫しながら作って楽しんだ。

終了後、セミナーパークに戻り研修室でワークショップを行った。

(3) ワークショップ

ボランティアスタッフも含めて5班に分かれ、「トンボ池を守ろう」をテーマに、図面上で自然を損なわないようにして開発計画を考えた。各班からの発表の後、人と自然の関わりについて話があった。



(4) 星空観察

星空観察を通じて大気環境に関する意識を高めることを目的として行ったが、あいにくの曇り空で十分な観察ができず、屋内でパソコンを利用した星空を見て勉強した。

《2日目》

(1) 積水ハウス山口工場見学

山口市にある積水ハウス山口工場を訪問し、同社の環境への取組や、環境に配慮した住まいについて学んだ。

○ 環境への取り組み

住宅を建築する過程での、地球温暖化防止、循環型社会形成、自然保全等に対する取り組みや、会社として事業活動する際の取り組みについて説明があった。

○ 体験

ファンタジーランド、インザダーク、ジャイアントラボ等で、3Dの映像や実際に震度7を体験できる仕掛けで火災や地震を模擬体験し、その後二重ガラス窓で断熱効果を体感した。

(2) 秋吉台エコ・ミュージアム、大正洞見学

秋吉台エコ・ミュージアムと大正洞で、自然を保全していくことの大切さを、また、そのための関係者の努力について学んだ。

○ 施設内の展示等の見学、説明

大正洞の成り立ちや、洞窟内の生物の特性等について

・洞くつ内の生き物は光が届かない中で生きている。目が退化し、代わりに触覚が長い、手が多いなどの特徴があり、また色は白く無色透明のものもいる。食べ物が少ないので、

あまり食べなくても生きていけるように体が小さいものが多い。

○ 体感シアター

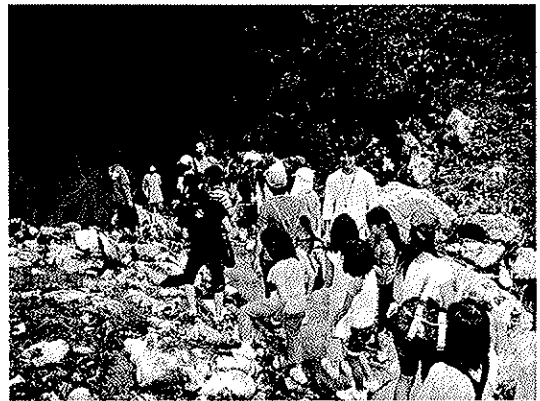
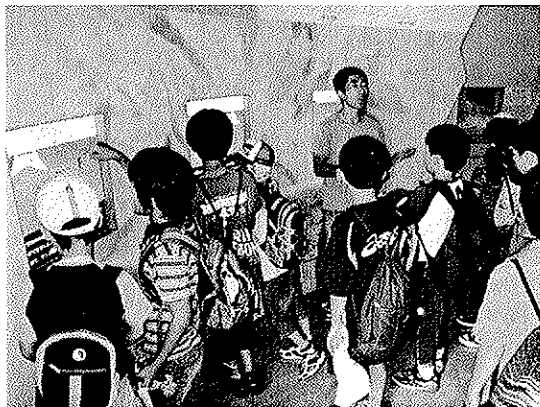
秋吉台の四季の映像と、草原を守るための人々の取り組み

・地元の人やたくさんのボランティアが協力して、年1回山焼きを行うことで草原を維持している。山焼きの前には、火道切りという、森林に火が燃え広がるのを防ぐために草を刈り取って防火帯を作る重要な作業がある

○ 大正洞

3週間前の豪雨の時には地下水位が上昇し、大正洞の入り口付近は案内板の高さ(約1m)まで浸かった、との説明があった。

洞くつ内は16度であり、一年を通して温度が一定。また、コウモリの群生、子育て、フン、鳴き声等に参加者は興味を示していた。



(まとめ)

身近な家庭や地域、学校で、環境を守るためにどのようなことが出来るのか、なにをやればいいのか、について考え行動するようになることを目的として開催したもので、かなり詰め込んだ内容であり参加した子どもたちには大変な面もあったと思われるが、最後まで積極的に学んでくれた。

参加者同士またボランティアスタッフとのふれあもよい体験になったと思われる。ボランティア4名中2名は中国からの留学生(県立大学)であり、子ども達はより一層、ふれあいを楽しんでいた。